

様

年 月 日

## EP (シスプラチンとエトポシド 併用) 療法

この治療では次の2種の薬を使用します。

**シスプラチン注**：細胞のDNAに作用し効果を現します。

**エトポシド**：細胞分裂を止めて効果を現します。

<投与スケジュール> . . . 4週間 1コース 今回 コース目

<薬品名> <投与方法・時間>	<薬の作用>	1コース目				2コース目
		1日目	2日目	3日目	. . . .	29日目
アロキソ注・デキサト注 <点滴静注30分>	吐き気止め				休薬	
デキサト注・生食 <点滴静注30分>	吐き気止め				休薬	
<b>エトポシド</b> 輸液500ml <点滴静注120分>	化学療法剤				休薬	
輸液500ml <点滴静注120分>	腎障害予防				休薬	
20%マンニトール <点滴静注60分>	利尿剤 (腎障害予防)		休薬			
<b>シスプラチン注</b> 生食250ml <点滴静注 60分>	化学療法剤		休薬			
輸液500ml <点滴静注120分>	腎障害予防		休薬			

### <薬剤投与日の注意>

- ★ 点滴部位が痛くなったり、腫れたりした場合や点滴が落ちなくなった場合は、薬液が血管外へ漏れていることがありますので、すぐに申し出てください。
- ★ 薬剤の投与は、血液検査やその他必要な検査を行いながら進めていきます。副作用の発現・合併症の有無によって治療の途中でも、薬剤の減量・変更や中止されることがあります。

<備考>

## <副作用>

副作用と症状	頻度	対策	備考
白血球減少 発熱 風邪様症状	重度約50% (1000以下の好 中球減少約90%)	うがいや手洗い・休養を心がけてください。白血球を増やす薬や抗生物質を使うこともあります。	
血小板減少 出血	重度18%	けがや打ち身、歯ぐきからの出血、鼻血などに気をつけて下さい。止血剤を使ったり、輸血をすることもあります。	
貧血 倦怠感、息切れ めまいなど	重度30%以下	採血結果によっては、造血剤の使用や輸血を行います。	
吐き気・嘔吐	重度約6%	我慢をせず吐き気止めを使用してください。	
口内炎	—	うがい薬や口内炎用塗り薬を使用してください。	
過敏症（アレルギー） 顔がほてる、息苦しい、 胸が苦しい 発疹、かゆみなど	—	予防薬を使用しますが症状があればすぐに申し出て下さい。	
腎障害	—	水分摂取に心がけ、尿量を多くしてください。	
その他：間質性肺炎、肝障害、発熱、脱毛、下痢、便秘、神経障害など			

▶ シスプラチン等の白金製剤で起こる過敏症は数コース治療後に起こすことがあります。

ここにあげた副作用は、代表的なものです。万一副作用が現れても、早期に発見、対処すれば、治療の継続が可能です。過剰に心配せず、気になること、調子の悪いことがあれば、医師・薬剤師・看護師に申しでてください。

